

新型コロナウイルス感染症パンデミック後の 大学生のための健康学の教育・支援

渡部 かなえ

英文要旨

Owing to the spread of coronavirus disease-2019 (COVID-19), university students were affected both campus life and daily life. Through the research in 2020 (just under COVID-19 pandemic), we knew that health science education at university should provide accurate information to students and promote their health literacy skills. In 2023, even though COVID-19 pandemic crisis seems to be calming, still university students' physical and mental health and social health would not have been restored. Therefore, this study aimed to examine what kind of health science education and support needs for university students now and in the near future by conducting the questionnaire survey and comparing the results with the results of 2020.

キーワード

新型コロナウイルス感染症, COVID-19, 健康学, 教育, 大学生, ヘルスリテラシー

序論

新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）の拡大で、2020年2月末から3月の学期末や4月からの新学期開始時を皮切りに、学生・生徒たちも様々な影響を受け始めた。大学も2020年の前半は学校が閉鎖され、卒業式や入学式は中止となり、新学期の最初は授業も行われず、授業再開は5月のゴールデンウィークが終わってからになった。授業が始まっても登校はできず、受講それ自体はもちろん、受講のための事務手続きもインターネット経由などリモートで行わざるをえなかった。また、特に感染爆発の直後は国内外で多くの人が亡くなり、ウイルスだけでなく、感染への恐怖心も日本中に広がった。日本では、小学校から中学校、高等学校まで保健を学習している。しかし、公衆衛生上の混乱から、大学入学前までの保健学習が感染症への対処にどのくらい役に立っているのか疑問であった。

2020年のパンデミック最中の大学生への調査結果から、入学時にコロナ禍にみまわれた大学生への健康学の教育で必要なのは、正しい情報の提供と、ヘルスリテラシー（健康情報を活用する力：Nakayama et. al., 2015）を高めることである、という知見が得られた（Watanabe, 2021）。

日本国内でのパンデミック開始から約3年が経過して、2023年3月の卒業式ではマスク着用しないことを基本とする方針が政府（首相）によって表明され、4月には入国の際のワクチン接種証明が不要になった。コロナの感染症分類は5類への引き下げが決まり、様々な制限が撤廃あるいは個々の自主判断に任されることになり、大学での授業も対面形式に戻った。しかし、学生たちの体と心と社会の健康が回復されたとは言えない状況が続いており、大学での健康学の学びが必要であり重要であることに変わりはない。

本研究は、2020年の調査結果と大学生が今（2023年現在）抱えている不安や問題とを比較して、今とこれからの大学での健康学の教育・支援はどのようなものであるべきかを検証することを目的として行った。

方法

質的研究手法を用いて、2020～2022 のコロナ禍のうち、2020 年の 1 年間または 2021 年と 2021 年の 2 年間で大学入学前に経験した 122 名の学生に、無記名で、選択肢または自由記述方式のアンケート調査を行った。アンケートへの協力は任意で、協力してもしなくても、途中でやめても、何ら不利益は生じないこと、また個人が特定されることがないことを保証して、オンラインでのボランティア参加（アンケートへの回答）を依頼した。アンケートの主な質問項目は以下で、2020 年の調査との整合性を持たせた。データは Braun と Clarke の主題分析のフレームワークを用いて解析した (Braun & Clarke, 2006)。

- (1) 感染症や感染症を防ぐことについて、小学校、中学校、高等学校の保健の授業などで、どのようなことを学びましたか？
- (2) 新型コロナウイルス感染症に関する情報を、あなたは主にどこから・何から得ましたか？
- (3) 新型コロナウイルス感染症に関連することで、困ったことや不安に感じたことはありますか？
- (4) 新型コロナウイルス感染症に関することで、あなたが知りたかったことは何ですか？
- (5) 学生生活に関することで、困ったことや不安に感じたことはありますか？
- (6) 新型コロナウイルス感染症に関することで、市民（大人）や社会への要望や伝えたいことはありますか？
- (7) 新型コロナウイルス感染症に関することで日本の政府（内閣、厚労省、文科省、地方自治体など）への要望や伝えたいことはありますか？
- (8) 新型コロナウイルス感染症に関することで、医療従事者への要望や伝えたいことはありますか？
- (9) 新型コロナウイルス感染症に関することでマスコミへの要望や伝えたいことはありますか？

なお、この研究は神奈川大学の人を対象とする研究に関する倫理審査委員会の承認を受けており（番号 2020-4）、また日本体育・スポーツ・健康学会の倫理ガイドラインを遵守して実施した。

結果

1. 小学校・中学校・高等学校での感染症予防に関する学習（表 1）

2020 年・2023 年の調査結果とも、「手洗い」を小・中・高等学校での保健学習で感染症予防に関して学んだと回答した学生が最も多く、順位の変動はあるが、「マスク着用」も多かった（文部科学省検定教科書：小学校・中学校・高等学校，保健（ほけん）・保健体育，2017，2018）。また、2020 年には上位リストにはなかった「うがい」と「消毒・殺菌」が、2023 年の調査では第 2 位とは第 4 位に入っていた。逆に「生活習慣を整える」は 2023 年には上位ではなくなっていた。なお、2020 年・2023 年の調査とも「特に学んでいない」という回答が少なからずあった。

表1：小学校・中学校・高等学校での大学入学前の感染症に関する学習

No.	2020 年の調査	(回答数)	2023 年の調査	(回答数)
1	手洗い	58	手洗い	52
2	マスク着用	25	うがい	52
3	生活を整える／栄養・運動・睡眠	19	マスク着用	26
4	特に学んでいない	15	消毒・殺菌	14
			特に学んでいない	11

2. コロナに関する情報源（表2）

2020 年の調査では、学生のコロナに関する主な情報源は家族や友人知人で、次いで新聞が多かった。2023 年の調査では、インターネットのニュースや記事を情報源とするものが最多で、次いで SNS（インターネット上の交流サイト）であった。そして、2020 年には第2位だった新聞は、2023 年は利用する人が減少して、上位の回答リストからは消えていた。

表2：新型コロナウイルス感染症についての情報源

No.	2020 年の調査	(回答数)	2023 年の調査	(回答数)
1	家族や友人、知人	53	インターネットのニュースや記事	50
2	新聞	48	SNS	48
3	TV	18	TV	41
4	SNS	7	家族や友人、知人	36

3. コロナに関連する困ったこと・不安なこと（表3）

コロナに関する困ったこと・不安なことは、2020 年の調査では、「学校生活」が最多であった。しかし 2023 年の調査では、学校生活で困りごとや不安があるという回答は減り、上位には入っていなかった。

しかし、感染それ自体については、2020 年は、「感染すること」（感染に付随する偏見や差別、大切な人に迷惑をかけることを含む）、2023 年は「感染の再拡大」と、いずれも多く多くの学生が「感染」を困ったことや不安なことにあげていた。また 2023 年は、2020 年にはあまりなかった「後遺症やワクチンの副反応」という回答が増えた。

なお、社会や生活の制限（および再び制限されること）を、2020 年も 2023 年も、多くの学生が困ったこと・不安なこととしてあげていた。

表3：新型コロナウイルス感染症に関連する困ったことや不安なこと

No.	2020 年の調査	(回答数)
1	学校生活	41
2	感染すること	37
3	コロナがいつ終息するのか分からないこと（先が見えない）	28

4	社会や生活の制限	26
---	----------	----

No.	2023 年の調査：現在（2023 年）困っていること・心配なこと	（回答数）
1	再びの感染症の拡大	46
2	いつまで感染対策をしないといけないのか（マスクを外す・外さないの自主判断で困っている等も含む）	13
3	後遺症やワクチンの副反応	12
4	再び日常生活や学校生活が制限されること	10

4. コロナについて知りたいこと・知りたかったこと（表 4）

コロナについて知りたい・知りたかったことでは、感染に関することが最多であった。また、コロナの発生源や世界中でパンデミックが広がったことについて多くの学生が「本当のことを知りたい」と思っていた。なお、困ったこと・不安なことと同様に、コロナの後遺症やワクチンの副反応について知りたいという回答数が、2023 年には上位に入っていた。2023 年になっても情報が必要な感染症に関する事項は増え続けていて、学生たちは正確な情報が与えられることを必要としていた。

表 4：新型コロナウイルス感染症に関して知りたい・知りたかったこと

No.	2020 年の調査	（回答数）
1	感染の危険性、症状、感染を予防する方法、感染経路など	53
2	感染拡大が終息したら元の生活に戻れるのか	29
3	治療薬、ワクチン	24
4	コロナの発生源、なぜパンデミックになったのか・パンデミックを防げなかったのか	14

No.	2023 年の調査	(回答数)	
1	感染の危険性, 症状, 予防法, 感染経路など	40	
2	コロナの発生源, なぜパンデミックになったのか・パンデミックを防げなかったのか	18	
3	ワクチンの効果, 治療薬の効果	13	21
4	コロナの後遺症, ワクチンの副反応	8	
	コロナはいつなくなるのか, いつ普通の (コロナ前の・元の) 生活に戻れるのか	8	

5. 学校生活に関して困ったこと・不安だったこと（表 5）

2020 年には困ったこと・不安だったことの第 1 位だったが 2023 年には上位の回答ではなくなった学校生活であるが、改めて「学校生活で困ったこと・不安だったこと」を聞いたところ、2023 年の回答には、「疑問や不安に思うことの相談や確認」が、「授業の履修・受講」や「友達作り」と並んであげられていた。

表5：学校生活に関して困ったこと・不安だったこと

No.	2020 年の調査	(回答数)
1	授業の履修・受講：39 (* 遠隔授業になった) いつ授業が始まるのか、どの様に授業が行われるのか：16	計 45
2	友達作り	25
3	必要な情報の入手	18

No.	2023 年の調査	(回答数)
1	授業の履修・受講 (* 遠隔・対面・ハイブリッド授業)	25
	疑問や不安に思うことの相談や確認	25
	友達作り	25

6. 社会や大人たちへの要望や伝えたいこと (表6)

2020 年の調査でも 2023 年の調査でも、個人ができる感染予防をきちんとしてほしい、というのが最大の「社会・大人たち言いたいこと」であった。マスクをきちんと着用しない、外出・外食・3密を避けるなどの感染予防対策をしない大人が少なからずいたことに学生たちは不快感や不満を持っていた。これは、2023 年の調査の回答にあった「感染拡大を若者のせいにはしないでほしかった」「若者にも配慮してほしい」という思いにつながっている。

また 2023 年の調査では多くの学生が「感染者への誹謗中傷や差別、感染の責任のなすりつけ合いは止めてほしい」と回答していた。

表6：社会や大人たちへの要望や伝えたいこと

No.	2020 年の調査	(回答数)
1	個人ができる感染予防（マスク着用、不要な外出を控える等）をしない大人が多く、改善してほしい	20
2	社会や組織ができる感染予防（テレワークの促進、電車の混雑を防ぐ）をしてほしい	19
3	（感染予防とは直接関係のない）迷惑行為（日用品の買い占め、店舗スタッフを困らせる等）はやめてほしい	11

No.	2023 年の調査	(回答数)
1	個人ができる感染予防（マスク着用、不要な外出を控える等）をしない大人が多く、改善してほしい	25
2	感染者への誹謗中傷、差別、責任のなすりつけ合いは止めてほしい	9
	感染拡大を若者のせいにはしないでほしかった。若者にも配慮してほしい。	9

7. コロナに関して政府への要望や伝えたいこと (表7)

2020 年の調査でも 2023 年の調査でも、感染の拡大防止のための対応の遅さや不適切な対応への不満

や不信が最も多かった。特に具体的な事柄として「アベノマスク」をあげたものが多かった。また、支援の遅さや不適切さへのクレームも多かった。しかし、2023年の調査では、支援への感謝を述べている回答もあり、支援を要請して得ることができた学生とできなかった学生とで評価が分かれた。

表7：政府への要望や伝えたいこと・伝えなかったこと

No.	2020年の調査	(回答数)
1	もっと早く的確な対応をすべき	23
2	緊急事態宣言や外出自粛の不透明さ	20
3	支援が遅い、不十分、不適切	19

No.	2023年の調査	(回答数)
1	もっと早く的確な対応をすべきだった	35
2	支援に感謝	9
3	支援が遅かった、不十分だった、不適切だった	7

8. 医療従事者に伝えたいこと（表8）

2020年・2023年の調査とも、医療従事者には、感謝とねぎらいの言葉が圧倒的に多かった。ただし、2020年は医療崩壊が起こって、重症患者が入院できなかったり、院内感染が発生し病院や病棟が閉鎖されたことへのネガティブな回答が一定数あった。2023年にはネガティブな回答は極めて少数であった。

表8：医療関係者への要望や伝えたいこと・伝えなかったこと

No.	2020年の調査	(回答数)
1	感謝。休んでください	57
2	患者の受け入れを増やしてほしい	27
3	院内感染を防いでほしい	16

No.	2023年の調査	(回答数)
1	感謝。休んでください。	55
2	患者の受け入れを増やしてほしい	1
	院内感染を防いでほしい	1

9. マスコミへの要望や伝えなかったこと（表9）

2020年・2023年とも、「正確な情報を出してほしい」という回答が最多であった。また、「不安をあおる、パニックを引き起こすような報道はしないほしい」も上位の回答であった。マスコミのセンセーショナルな報道や、デビデンス（根拠）が希薄な情報の垂れ流しが社会の混乱や人々の困惑に及ぼした影響は小さくない。また2023年の回答には、それに加えて、感染者や遺族へのマスコミの配慮のない取材や報道への憤りもあった。さらに2020年の調査結果には、マスコミが感染者に接触したり感

染地域に行く「取材」行為が、感染を拡大の一因となっている、という指摘もあった。

表9：マスコミへの要望や伝えたいこと・伝えなかったこと

No.	2020 年の調査	(回答数)
1	正しい情報を出してほしい。	41
2	不安をあおる、パニックを引き起こすような報道はしないでほしい	6
3	取材時に感染に注意してほしい（取材が感染拡大の一因になっている）	6

No.	2023 年の調査	(回答数)
1	正確な情報を出してほしい	35
2	感染者数の報道がありがたかった	15
3	不安をあおる、パニックを引き起こすような報道や、感染者や遺族への配慮の無い取材や報道は止めてほしい	10

議論

コロナという感染症は、身体だけでなく心や社会の健康も失わせた。コロナの感染症法上の分類が5類に引き下げられ、様々な制限が撤廃された2023年現在でも、失われた健康、特に学生たちの心の健康と大人たちが動かしている社会の健全さに対する信頼が回復されたとはいえない。感染再拡大の懸念は大きいことが、今回の調査で明らかになった。今でも深い傷になっている、感染者やその家族への差別や誹謗中傷が生んだ人々の分断、感染拡大を若者のせいにされたこと、その大人たちが感染予防に反する行動をしたこと（子どもには黙食を強要し、修学旅行や運動部の大会などの学校行事や課外活動を中止する措置を社会や大人たちがとった一方で、大人たちはGo to eatで外食をし、Go to travelであちこちに移動したこと等）は、若者である学生たちに不平等感と不信感をもたらし、心と社会の健康の回復の妨げになっていると推察された。

しかし、パンデミックが勃発した2020年当時と比べると、様々な制限が解除された3年後の現在は、情報の共有や、共有した情報の取捨選択や検討を他者と一緒に行うこと（他者との時間の共有）が可能であり、正しい情報を共有できれば「わからなくて」困ったり不安になることへの解決に繋がる。また、支援を受けられて感謝している学生と、支援が受けられなかったり遅すぎて困った学生の両方がいたという調査結果などから、社会や大人に対する不信感や不平等感、困っていることがある場合、黙っていたのでは状況は改善しなかったが、現状や実態を明らかにして伝えれば、対応や解決への糸口に繋がったことが分かった。また、マスコミの不正確だったり不適切だった情報発信や、感染者やその家族への差別や誹謗中傷はやめるべき、という大切な意見も、表明しなければ伝わらない。健康の社会的決定要因の影響は計り知れないが（WHO, 2006）、健康に影響を及ぼす社会を変えていくためには、エビデンスを明示して情報を発信していかねばならない。これらの結果から、情報を受け取るだけでなく、情報を発信するスキルの必要性和重要性が示唆された。

2020年の調査研究で、大学生への健康学の教育では、正しい健康情報の教示とヘルスリテラシー（健康情報を活用するスキル）、すなわち健康情報にアクセスできるスキル、健康情報を評価・判断し自分に必要な情報を選択できるスキル、選択した情報を実践して行動に移せるスキルの育成が必要であることが分かった。2023年の調査では、それらが引き続き重要であることが改めて確認されたことに加

えて、健康情報を他者と共有するスキルと、健康情報を受け取るだけでなく発信するスキルを習得できるよう支援することが、今とこれからの大学での健康学の教育が必要であると結論づけることができた。

参考文献

- i. Nakayama K., Osaka W., Togari T., Ishikawa H., Yonekura Y., Sekido A., Matsumoto M., Comprehensive health literacy in Japan is lower than in Europe: a validated Japanese-language assessment of health literacy. BMC Public Health, 15, 505, 2015.
- ii. Watanabe K., University health science education during the severe acute respiratory syndrome coronavirus2 outbreak, Asia Pacific Journal of Contemporary Education and Communication Technology, Vol. 7, Issue: 1, 1-9, 2021.
- iii. Braun V., Clarke V., Using thematic analysis in psychology, Qualitative Research in Psychology, 3 (2), 77-101, 2006.
- iv. 学研，文部科学省検定教科書，小学校3・4年生用，みんなのほけん，2018。
- v. 学研，文部科学省検定教科書，小学校5・6年生用，みんなの保健，2018。
- vi. 学研，文部科学省検定教科書，中学保健体育，2018。
- vii. 大修館書店，文部科学省検定教科書，現代高等保健体育 2017。
- viii. World Health Organization, Edit: Richard Wilkinson E., Marmot M, Social Determinants of Health: The Solid Facts. 2nd edition, 31, 2003.